



一とせし集

明治 13
1899



門
卷
1899
13

むとゆき

巻之上



むつりり夏の時やまきん三
 條を念よたきとすし人か
 しり御門のいえいそくし
 して時をたかすのさうか
 せにふれ門のいえきよ
 の宮よりさきあひし
 ぬれしけんたきとすし
 て程あくる夏はあつ
 ぬれを七葉のきよ
 しくいふ秋無霜の
 けきとの姿か
 せあつと
 父の母

の文もたてあゆむに思惟がさるる
一あまのこゝろのこゝろをたもつて
たふかくをばしゆくかゝるゝあま
に母文もよみかきさうひの法神法仏
世のいのちをまへくあまのこゝろも其
まゝしよまゝく見よりの大のふあま
あひあゆむかゝるゝとてえいゝまゝ
はふあせりあゆむの法常法あひの
まゝりあゆむのあゆむまゝの命いぢり
もあまのこゝろをたもつて二人のこゝろ
あひあゆむかゝるゝあまのこゝろを
しよまゝのあゆむはまゝのあゆむ
といふあまのこゝろをたもつてあま
をたもつてあゆむのこゝろをたもつてあ

あまのこゝろをたもつてあまのこゝろを
かゝるゝあまのこゝろをたもつてあま
あまのこゝろをたもつてあまのこゝろを
のあまのこゝろをたもつてあまのこゝろを
今いふあまのこゝろをたもつてあまのこゝろを
むしりあまのこゝろをたもつてあまのこゝろを
世界あまのこゝろをたもつてあまのこゝろを
まゝあひあゆむかゝるゝあまのこゝろを
たもつて二人のこゝろをたもつてあまのこゝろを
小いあまのこゝろをたもつてあまのこゝろを
あまのこゝろをたもつてあまのこゝろを
まゝあゆむかゝるゝあまのこゝろをたもつて
はまゝあゆむかゝるゝあまのこゝろをたもつて
くあまのこゝろをたもつてあまのこゝろを

いふのとさぬさゆあぬの車跡らしきを
殿上人のまゝにありおぼふ跡ゆきをぬか
時子神を存はせぬものれは一村をたあと
そこやんをれをうり夕はく日ちうくと
とくもれを

ねははるるいそくれとふれ夕時白

うそのやふもいそふのまあふ那

と証をせりして三葉のうらうせふなる車
とはとゆきもあまの出入はまはゆきれをふ
て四車とは中川ふいそをまのひやせのひけ
女房よりいゆみれりしれものひあふを
とゆきまのけりまきれふがしふまのれを
あひていらんけ色にん性ふ部中ゆふを
ら女房よりあふり一人はらちあふまふ

くれあぬのはるをとりまけりけるはに性
のいれのと性あぬと云女房一人は
いろのまゆふうすくれあぬをぬあをそは
なゆつ依と云女房あり今一人は常
福のあに文とれまけりけるはに性ま
ふちういものあをゆきまのれを
はちまのまゆけりまをていふの
まののうらあけり年の絶すたせとてい
ふのまの白の十二部とまのれあぬの
はるあふりまゆけりまのうらあ
性あふりまのまゆけりまのれを
けりまのれをいれりまの性あぬ
はるまのまゆけりまのれをいれり
まのまゆけりまのれをいれり

昔陽儀と漢一しかくはあしけ

たまたまははるかにれ九月新乃

とけし、おき并地屋をあらうし義

とねせとれなきお徳かこまへかり衣乃

神かきあを鑑か

新さよれ自のまうとねあはまを

あしとねあはまをいさしあは

とあちあまいしとねあはまをい

いあまいしとねあはまをい

いあまいしとねあはまをい

いあまいしとねあはまをい

いあまいしとねあはまをい

いあまいしとねあはまをい

いあまいしとねあはまをい

いあまいしとねあはまをい

いあまいしとねあはまをい

いあまいしとねあはまをい

いあまいしとねあはまをい

いあまいしとねあはまをい

いあまいしとねあはまをい

いあまいしとねあはまをい

いあまいしとねあはまをい

いあまいしとねあはまをい

いあまいしとねあはまをい

いあまいしとねあはまをい

いあまいしとねあはまをい

いあまいしとねあはまをい

いあまいしとねあはまをい

いあまいしとねあはまをい





